

042 田中本家文書目録と目録作成について

1 須坂市穀町の田中本家は、享保 18 (1733) 年、初代田中新八が穀物・菜種油・煙草等商いをはじめて豪商田中本家の基礎を築いたといわれる。現当主田中宏和氏は、田中本家 12 代目を引継いでおられる。

現在、田中本家にはすでに目録化されている史料群（「田中家文書目録 (1)・(2)」）以外に別史料群が存在する。今回目録を作成した史料群は、後者の未整理史料群である。

2 5 代新十郎は天保 12 (1841) 年、須坂藩士分を取立てられ主水を拝命し、石高 70 石を与えられた。それまでに、田中本家は須坂藩の御用達として藩財政を支え、再三にわたる献金・才覚金等を調達して、藩の苦境を救ってきていた。その後、藩への貢献度がいよいよ高く、万延元年には主水が 100 石 2 人扶持に取立てられている。これらの状況を裏付ける才覚金調達請取史料ほか河野連・広沢善兵衛ら藩重鎮との関係を示す書簡も多数見られて貴重である。また、明治 3 年前後から 10 年代にかけては、田畑小作地や貸家等を大量に質入れ地としている史料もみられる。田中本家の経営の一実態を示す史料として重要であろう。

3 明治 20 (1887) 年、上高井郡の高額所得者をみると、第 3 位として田中力之助がみられる。総所得 5137 円のうち地所所得が全体の 85% (4367 円) を占めており、他の高額所得者が、貸金利子・銀行・製糸関係の所得比率が高いのに比べて特色がある。

今回調査した史料には、幕末から明治期にかけて土地集積・拡大をはかってきた田中本家地主経営の側面を示す明治 30 年代の土地台帳もみられる。

4 これらの田中本家史料を『田中本家文書目録』として文書目録を作成した。『須坂市域の史料目録』の連番整理番号「042」(42 番目) に位置付け、史料番号は、「042 - A - 1」から開始して整理ラベルを貼付した。

史料区分は、依頼時期により A から F (1 回目)、G から M (2 回目) として、以下のように文書目録を作成した。

分類項目	史料番号	史料点数
A	5	5
B	155	164
C	32	32
D	62	62
E	75	84
F	70	72
G	64	161
H	235	237
I	66	152
J	149	164

K	33	33
L	91	91
M	24	24
合 計	1061	1281

史料番号 1061 をかぞえ、史料総点数では 1281 点となっている。

5 これを契機に、本史料目録が、須坂市民ほか地域史研究者により、新たな歴史叙述・編さんの基礎史料として大いに活用されることを期待したい。

6 史料目録の作成にあたっては、史料活用の便を考慮して、次のようにした。

- (1) 史料名は原則として原史料中に記載された表題をそのまま記載した。
- (2) 「覚」のみで内容未記載の史料については、「覚（山年貢請取）」のように内容説明を記載したものもある。
- (3) 書簡など史料を数点まとめて束とした場合は、冒頭の史料の表題を書き、「外○点」と点数を記載して目録としたものもある。

7 本史料目録は、田中本家のご理解とご協力を得て、須坂市誌編さん室の下記専門員が分担して作成した。

竹内正勝	勝山一男	涌井二夫	丸山文雄
小林 裕	小林謙三	井上光由	

(編さん担当：青木廣安・丸山文雄)

2011 年 8 月 5 日

須坂市誌編さん室